

学生無料ご招待

青少年のためのレクチャーコンサート

音楽における 愛のかたち



渡辺 玲子
〈ヴァイオリン〉

©Yuji Hori
グァルネリ・デル・ジェス
1736年製ヴァイオリン「ムンツ」

江口 玲
〈ピアノ〉

©Rikimaru Hotta

2011.
11.11 **金**

アトリオン音楽ホール
13:30開場 / 14:00開演

※この公演には休憩がありません (15:20終演予定)

主催 / 日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

アトリオン音楽ホール

後援 / 秋田県
協賛 / 秋田アトリオンビル(株)

協力 / 日本財団
The Nippon Foundation

お申し込み・お問い合わせ
秋田アトリオン事業部
☎ (018) 836-7803
秋田市中通2-3-8 アトリオンビル5F
http://www.kosei-buil.co.jp/atorion/



〈プログラム〉

1 * 母への愛

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ
ホ短調 K 301より第1楽章

2 * 自然に対する愛

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ
へ長調「春」より第1楽章

3 * 妻への愛

バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ
第2番よりシャコンヌ

4 * 祖国への愛

ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタより第2楽章、第4楽章
チャイコフスキー：「なつかしい土地の想い出」からメロディー
クライスラー：ウィーン奇想曲

5 * ヴァイオリンが奏でる「愛」の世界

クライスラー：愛の喜び
愛の悲しみ
サラサーテ：チゴイネルワイゼン

全席指定

学生無料ご招待

— 先着700名、要事前申込 —

対象者 秋田県在住の25歳以下の学生

- ♪ 団体での申し込み可能です。
- ♪ 中高生が個人で申込みれる場合は、担任の先生の許可が必要です。
- ♪ 引率につきましては、お問い合わせください。

申込期間 2011年8月12日(金)~10月28日(金)

申込方法 秋田アトリオン事業部までお電話ください。

※一般の方は10月29日以降、空席がある場合のみご招待が可能となりますので、お問い合わせください。

お申し込み
お問い合わせ | 秋田アトリオン事業部 TEL. 018-836-7803

青少年のためのレクチャーコンサート

音楽における 愛のかたち



©Yuji Hori

渡辺 玲子 (ヴァイオリン)

Reiko Watanabe, Violin

渡辺玲子は、超絶的なテクニック、玲瓏で知的な音楽性、切れ味鋭い官能性とその広いレパートリーで日本のみならず世界のヴァイオリン界をリードする逸材である。

第50回日本音楽コンクールにおいて最年少優勝(15歳)、同時に第1回増沢賞(全部門を合わせて最も優れたものに与えられる賞)を受賞、翌年の「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団とバルトークのヴァイオリン協奏曲第2番を共演、衝撃的なデビューを飾った。

1984年ヴィオットティ、1986年にバガニーニ両国際コンクールで最高位を受賞。

1985年からは、ニューヨークのジュリアード音楽院に全額奨学生として留学し、1992年に学士と修士を取得。ニューヨークを本拠地として、世界各地でオーケストラとの共演、リサイタル、音楽祭への参加と国際舞台で目覚ましく活躍している。フランスのフィガロ紙は「彼女は全曲を通じ、文句のつけようのないほど見事であり、その光あふれる音色と、一種言葉にできないような魅力が全曲を通じ、疑いを差し挟む余地のない優美さに輝いていた」、ワシントン・ポスト紙は、「身についた優美」と見出しを掲げた記事で絶賛し、シラキュース(アメリカ)のヘラルド・ジャーナル紙は、「マリア・カラスがもしもヴァイオリニストであったなら、彼女のように弾くだろう」と書いた。

これまでに国内の主要オーケストラはもとより、フィルハーモニア管、BBC響、ウィーン・トーンキュンストラ管、ロシア・ナショナル管などと日本ツアーを行ったほか、バンベルク響とはドイツと日本でツアーに同行、2003年にはサンクト・ペテルブルク響とロシアのサンクト・ペテルブルクと日本でツアーを行い、その演奏はライブ・レコーディングされ、CD発売されている。また、日本フィルハーモニー管弦楽団のヨーロッパ・ツアー、東京交響楽団のアメリカ・ツアーにもソリストとして同行している。

リサイタリストとしても意欲的に活動しており、1994年のカザルス・ホールでの「ニューヨーク・コレクション」(全5回)、2004年浜離宮朝日ホールでの「ブラームスとその系譜」(全3回)など、演奏の素晴らしさに加えて、その時代を見通したユニークなプログラムでも注目を集めた。また、1999年にはニューヨークのリンカーン・センターにおいてニューヨーク・リサイタル・デビューを果たし、NYタイムズ紙はその演奏を「圧倒的なテクニック、華麗な音色、劇的な音楽表現」と評し、見出しに「ウィルトゾフの圧倒的迫力に脱帽」と掲げて絶賛した。その他、2001年にはバッハの無伴奏作品に取り組み、これはCDとしても発売され高い評価を得ている。このほか、ワシントンのケネディー・センターやラヴィニア音楽祭、イタリアのストレーザ音楽祭等に出演している。

アジアでも活躍の幅を広げており、香港フィルと中国ツアーのソリストを務めたほか、武漢交響楽団とも共演、台湾でも定期的に演奏会を行っている。

レコーディング・アーティストとしてのデビューは、ドレスデンにおいてジュゼッペ・シノーポリ指揮ドレスデン・シュターツカペレと共演したベルクのヴァイオリン協奏曲で、演奏会と同時にテルデック・レーベルによってCD録音が行われ、1997年にリリースされると同時に高く評価された。その他、これまでに「マイ・フェイヴァリッツ」、「バッハ無伴奏ソナタ&パルティータ」、「チャイコフスキー&ショスタコービッチ：ヴァイオリン協奏曲」などがある。

2005年、第35回エグソン・モービル音楽賞奨励賞受賞。

2004年からは演奏活動の傍ら教育にも係り、国際教養大学特任教授として、音楽家を目指していない学生にも音楽の深さを知ってもらおうと、集中講義「音楽と演奏」を行っている。

東京生まれ、現在ニューヨーク在住。日本では、松井宏中、鈴木共子、田中千香士、堀正文、大谷康子、海野義雄の各氏に師事、アメリカでは、J・フックス、J・ラタイナー、F・ガリミア、S・ローズ、L・スターンの各氏に師事、他にスイスで、N・ミルシテイン、アメリカでJ・ギンゴルドのマスタークラスも受講している。

この演奏会では日本音楽財団より貸与されているガルネリ・デル・ジュス1736年製ヴァイオリン「ムンツ」を使用。

江口 玲 (ピアノ)

Akira Eguchi, Piano

「非凡なる芸術性、円熟、知性」(ニューヨーク・タイムズ紙)と評される江口玲はソリスト、室内楽奏者、チェンバロ奏者、そして伴奏者として世界中の聴衆と批評家たちを魅了してきた。

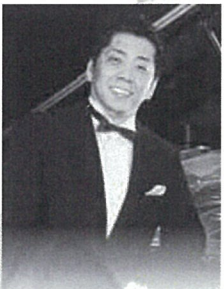
1992年に大成功を収めた、アリストラーホールでのニューヨーク・リサイタルデビューを始めとし、アメリカ、ヨーロッパ、アジアでの主要演奏会場にて演奏を続けてきた。ニューヨーク・タイムズ紙からは「流暢かつ清廉なるピアニスト」と賞賛され、これまでにカーネギーホール、エヴリーフィッシャーホール、アリス・タリーホール、92丁目のYMHA、ワシントンD.C.のケネディー・センター、そして、ウィーンのエム・ジークフェライン、ロンドンのパービカンセンター、パリのシャンゼリゼ劇場等でも演奏している。その抜きん出た演奏は、ホワイトハウスにて故アイザック・スターン氏によりクリントン大統領に紹介され、また東京の浜離宮朝日ホールでの演奏会には天皇皇后両陛下もご臨席された。母校ジュリアード音楽院のアジアツアーのソリストに抜擢された他、アメリカ、アジア、ヨーロッパ諸国等、今まで演奏で訪れた国は25か国に及ぶ。

参加した音楽祭はアメリカのアスペン、ラヴィニア、ニューポート、日本では長野アスペン、パシフィック、またヨーロッパではロンドンのジャパンフェスティバル、スイスのヴァルビエ、フランスのラ・フォル・ジュルネ等多数。ラジオ、テレビへの出演も数多くNHK-TV、NHK-FM、ニッポン放送、読売テレビ、ニューヨークのWQXR、WNCN、NPR、PBS、NBC、ラジオフランス、BBC放送等、またレコーディングはドイツグラモフォン、フィリップス、DENON、IDVC、マーキークラシックス、ヴィクター、ヴァンガード、BMG、佼成出版、NYS CLASSICS等から多数のCDが出ている。

2002年、春にNYS CLASSICSより発売されたソロアルバム、「Dear America」はレコード芸術から特選盤に選ばれ、「極上のエンターテインメント」「ガーシュインの霊が乗り移ったかのよう」と評された。また、2枚目のアルバム、「巨匠たちの伝説」(2003年6月発売)はカーネギーホールオープン時にステージ上にあった1887年製のピアノを使用し、カーネギーホールで録音された。このCDもレコード芸術から特選盤の評価を受け、2枚連続選出の快挙となった。そのほか、「展覧会の絵」(ホロヴィッツ編)、「ライヴ!ソナタ集」、「ライブ!小品集」、「Dear America, II」も好評発売中である。

これまでに、ジュリアード音楽院からは権威あるウィリアム・ベチェック賞と、大学院を最優秀の成績で卒業した者に贈られるウィリアム・シューマン賞を受賞、及び同校のジナ・バックウアー奨学金コンクールとコンチェルトコンペティションにて第一位を獲得、そのほかパリ国際室内楽コンクール入賞、ポーランドのヴィニャフスキー国際ヴァイオリンコンクールでは優れた伴奏者に送られるアレクサンダー・シュヴァイツァー賞を授けられている。作曲家としてはモーツァルトのヴァイオリン協奏曲のカデンツァをヴァイオリンの竹澤恭子女史に依頼され、宮崎音楽祭で演奏されたほか、チェリストの岩崎洗氏のためにもハイドンのチェロ協奏曲のカデンツァを書いている。また2003年11月には全音楽譜より自らの編曲によるラブソフィエ・イン・ブルーを含む「ガーシュイン ピアノ作品集」(江口玲編曲)が発売され、好評を得ている。

東京に生まれ、東京藝大附属音楽高校を経て東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業、その後同校にて助手を務めた後、ジュリアード音楽院のピアノ科大学院修士課程、及びプロフェッショナルスタディーを修了。ピアノをハーバート・ステッセン、外山準、金沢明子、伴奏法を故サミュエル・サンダース、作曲を佐藤真、北村昭、物部一郎の各氏に師事。2011年5月までニューヨーク市立大学ブルックリン校にて教鞭を執る。2006年より洗足学園音楽大学大学院の客員教授を務める他、2011年4月より東京藝術大学ピアノ科の准教授に就任。現在もニューヨークと日本を行き来して演奏活動を行っている。



©Rikimaru Hotta